

むかわ町「子ども発達支援センターたんぼぼ」の支援は、10月10日でいったん終了し、これまで3回活動を報告しました。少しさかのぼりますが、3回で報告できなかった活動を、④⑤⑥でお伝えします。

日時：10月4日（木）

参加者：3名（札幌YWCA2名、東京YWCA1名）

予定より早く到着したので、3人で鶴川町の大きな通りを歩くことにしました。初めて被災地にボランティアに入った私には、目の前にある現実には衝撃的な光景でした。波打つ歩道を実際に歩いてみると、ベビーカーを押すのは大変だろう、お年寄りには気をつけないとつまずいて転倒してしまうだろう等、報道の映像だけではわからない困難さを実感しました。

センターに到着し、14:30から活動を開始しました。今日は小学女児5名が集まり、最初の30分は、ホールで自由遊びから始まりました。子どもがけがをしないように見守り、トランポリン、ハンモック、大きなブランコを使用して一緒に遊びました。

15:00頃から部屋に入り、今日のメイン『すごろく遊び』を開始しました。先生が役割分担し、子どもたちが自由にアイデアを出し合ってすごろくを作成します。すごろくの道を作る（1人）・マス目のイベントを考える（4人）。子どもたちは、3つのマスに“ご褒美”を作り、私たちはそのマスに止まった子どもに対して「あっち向いてホイ!」「ゆび相撲」「じゃんけん」をします。勝つと数マス進めるという、私たちも参加して楽しめる事を考えてくれました。

終盤になると、「10マス進む」というものがあり、ゴールのマスを行き過ぎてしまうと、その分戻らなければいけない。しかし、戻ったマスに「10マス進む」「2マス戻る」などがあり、なかなかゴールできません。子どもたちはなんとかゴールしようと、必死の形相でサイコロをふってがんばっていました。ようやくゴールできると子どもたちは疲れ切り、安どの表情を見せたので、私たちも安心して笑顔になりました。長く楽しめた、良い勝負だったと思います。

メインのすごろくが終わった後は、保護者が迎えに来る16:30まで自由遊びです。最初と同じように、見守りながら一緒に遊びます。玄関で保護者を待っている時、先生が「あのセンター玄関前の石垣の一部も崩れたんですよ。下から突き上げられて、横に揺れる地震でした」「子どもたちのストレスを発散できるように、支援していきたい」と話してくれました。

今回、YWCAのボランティア活動を経験して、顔が見える活動の大切さを実感しました。もちろん、物資を送り届けることも、募金をすることも大切な支援です。しかし、お互いの顔が見えて信頼関係を築いていくことが、長く支援を続けていくうえで大事なことなんだと感じました。

外は非現実的な街並み。当たり前に見ていた日常の風景を失ってしまいました。土地の再建や産業の再生など、課題は多くあります。仮設住宅の建設も急務です。本格的な寒さが来る前に、震災を経験した方たち、特に子どもたちが、震災前の日常に少しでも早く戻れるように、私たちにできる支援をしていきたいと強く思いました。

（札幌YWCA購読会員 吉田ひろみ）